

テイ・エス テックグループの事業



さらなる事業管理の高度化を主導し、
資本・資産効率を高め、企業価値向上を図る

常務取締役 事業管理本部長

井垣 敦

—— グローバルキャッシュマネジメントによるリスク対応 ——

テイ・エス テックグループは、グローバル(世界14カ国、79拠点)に事業を展開しており、お客さまの生産活動に影響を及ぼさないことを前提に、各地域・国・拠点におけるリスクを考慮した「安全資金ガイドライン」を制定し、常に保有しておくべき資金や、有事に備えいつでも機動的に調達可能な資金管理体制を構築してきました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による各国政府主導の操業制限などに伴い、当グループの生産工場も中国

を皮切りに、米州やアジア・欧州地域において稼働停止が発生しましたが、グループ全体に適用している「安全資金ガイドライン」に基づく手元資金での対応ができており、現時点で資金繰りに問題が生じている拠点はありません。当グループの高い収益性を背景とした健全な財務基盤(2020年3月期 有利子負債比率 0.03%)をベースに、事業の継続性・財務の安定性を最優先に取り組んできた結果だと考えています。

—— 第14次中期経営計画の取り組み ——

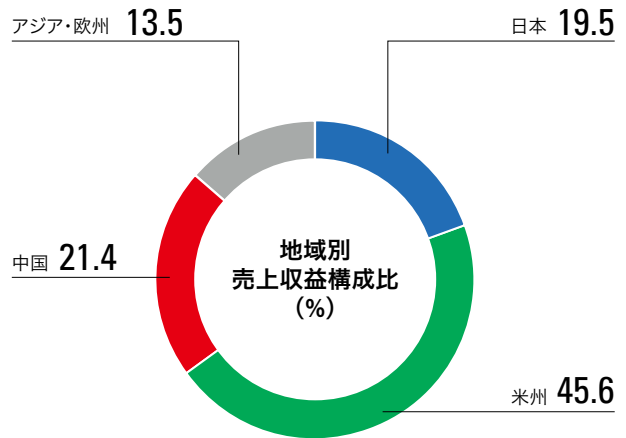
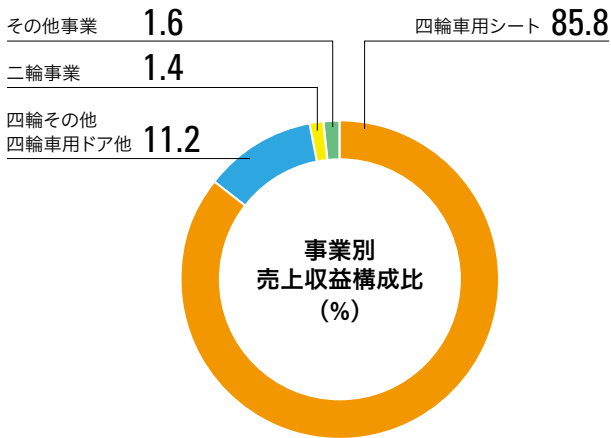
第13次中期経営計画は「事業成長を支える財務戦略」を掲げ、金軸から会社のさらなる成長への基盤固めに取り組んできました。「安全資金」に加え「株主還元」「戦略投資への資金活用」の3つのバランスを重視した施策に取り組んできた結果、資本や資産効率などの多くの指標は業界水準を上回り、特に安全性を示す指標については高く、健全で盤石な事業体質となりました。

しかしながら、事業環境の変化が急速に進む中、当グループが今後も継続して成長していくためには、毎年の営業活動から得られるキャッシュに加え、過去より積み上げられた資金を、有効かつ効率的に活用することが課題とな

ります。第14次中期経営計画においては、これまで以上に資本・資産の効率性指標を重視しながら企業価値の向上を図っていきます。

当グループが主要顧客におけるシェア拡大や新規顧客、新商権の獲得に取り組む中で、生産能力の拡大や新規拠点の立上げはもとより、新たな価値を創り出す先進技術開発やコスト競争力強化など、M&Aも視野に戦略的な投資計画を策定しています。

健全な財務基盤を維持した上で、これらの投資を積極的に推進することで、中長期的な視点で資本・資産効率の向上と持続的な企業価値向上に取り組んでいきます。

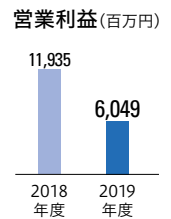
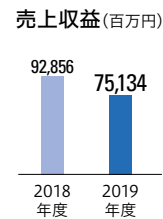


2019年度 地域別実績

日本

当期は、ホンダ新型N-WGNや新型FIT用シートなどの生産を開始しました。

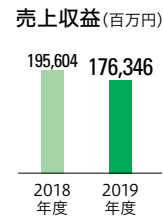
新型コロナウイルス感染症影響について、2020年3月末時点で工場の稼働停止などは発生しておらず、当期のセグメント業績への影響は軽微です。



米州

当期は、工程ごとの品質保証能力強化による品質コスト抑制に取り組み、高収益体質の構築に努めました。

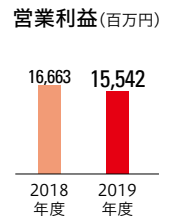
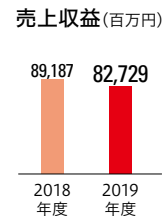
新型コロナウイルス感染症影響について、2020年3月下旬より一部の工場を除き稼働を停止したため、当期のセグメント業績に影響が生じています。



中国

当期は、武漢地区でホンダ新型ENVIX用シート、広州地区でホンダ新型BREEZE用シートなどの生産を開始しました。

新型コロナウイルス感染症影響について、春節(2020年1月23日)から3月中旬まで工場が稼働を停止したため、当期のセグメント業績に影響が生じています。



アジア・欧州

当期は、タイでホンダ新型ACCORDや新型CITY用シートなどの生産を開始しました。

新型コロナウイルス感染症影響について、2020年3月下旬より一部の工場を除き稼働を停止しましたが、当期のセグメント業績への影響は軽微です。

